

第2回みえ県民1万人アンケートの集計結果全体（概要）について

「強じんな美し国ビジョンみえ」では、“県民の皆さんが未来に希望をもち、幸福を感じながら、元気に、かつ安全・安心に暮らすことのできる持続可能な地域”を目指すこととしており、県民の皆さんの「生活の満足度」を把握し、県政運営に活用するため、1万人の県民の皆さんを対象に実施しました。

今回、令和5年12月から令和6年1月にかけて実施した「第2回みえ県民1万人アンケート」の集計結果がまとまりましたので、お知らせします。

I 調査の概要等

- 1 調査期間 令和5年12月～令和6年1月
- 2 調査方法 県内に居住する18歳以上の10,000人に対する郵送アンケート
調査票の回収は、記入した調査票の返送又はインターネットでの回答
- 3 有効回答数 4,578人、有効回答率45.8%
(郵送回答73.3%、Web回答26.7%)
- 4 調査項目
 - ・生活の満足度
 - ・県が注力している取組に関すること
 - ▶「防災」「結婚」「男女共同参画」「子ども・子育て支援」「人口減少対策」「定住意向」「公共交通」「観光」「共生社会」「デジタル」「選挙」「国体」
 - ・回答者の属性に関すること
 - ・自由意見
- 5 その他

第2回みえ県民1万人アンケートの集計結果をまとめた報告書は、5月29日（水）に県ホームページに掲載する予定です。また、6月中旬以降に県庁や各県庁舎（地域防災総合事務所、地域活性化局等）に配置する予定です。

URL <https://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/>

6. 回答者の属性

図表1 回答者の属性

(1) 集計する際の基本的な属性は、性別、年齢、配偶関係、世帯類型、主な職業、共働き、世帯収入、地域の8つとしています。

(2) 回答者属性の構成比について、第1回みえ県民1万人アンケート(以下、前回調査)との差における主な特徴は次のとおりです。

- ・性別では、「男性」の割合が前回調査より高くなっています。
- ・年齢別では、「40歳代」、「50歳代」、「60歳代」の割合が前回調査より高く、「18歳から20歳代」、「30歳代」、「70歳以上」の割合が低くなっています。
- ・配偶関係別では、「有配偶」の割合が前回調査より高く、「未婚」、「離別」、「死別」の割合が低くなっています。
- ・世帯類型別では、「一世代世帯」、「二世代世帯」の割合が前回調査より高く、「単身世帯」、「三世帯世帯」、「その他世帯」の割合が低くなっています。
- ・主な職業別では、「その他の職業」、「無職」以外の割合が前回調査より高くなっています。
- ・世帯収入別では、「500万円以上」の割合が前回調査より高く、「500万円未満」の割合が低くなっています。
- ・地域別では、「北勢地域」、「伊賀地域」の割合が前回調査より高く、「中南勢地域」、「伊勢志摩地域」、「東紀州地域」の割合が低くなっています。

属性	属性項目	件数	構成比 (%)		(前回差)
			今回	前回	
性別	男性	2,092	45.7	42.8	2.9
	女性	2,420	52.9	56.3	△ 3.4
	その他	15	0.3	0.2	0.1
	不明	51	1.1	0.8	0.3
年齢	18歳から20歳代	304	6.6	7.5	△ 0.9
	30歳代	435	9.5	10.1	△ 0.6
	40歳代	755	16.5	15.3	1.2
	50歳代	935	20.4	17.8	2.6
	60歳代	1,032	22.5	19.7	2.8
	70歳以上	1,031	22.5	28.0	△ 5.5
	不明	86	1.9	1.6	0.3
配偶関係	未婚	675	14.7	15.5	△ 0.8
	離別	187	4.1	7.6	△ 3.5
	死別	250	5.5	7.5	△ 2.0
	有配偶	3,396	74.2	67.9	6.3
	不明	70	1.5	1.6	△ 0.1
世帯類型	単身世帯	365	8.0	11.7	△ 3.7
	一世代世帯	1,511	33.0	32.7	0.3
	二世帯世帯	2,221	48.5	44.3	4.2
	三世帯世帯	384	8.4	8.6	△ 0.2
	その他世帯	44	1.0	1.8	△ 0.8
	不明	53	1.2	1.1	0.1
主な職業	農林水産業	87	1.9	1.8	0.1
	自営業・自由業	387	8.5	8.4	0.1
	正規職員	1,527	33.4	30.8	2.6
	パート・バイト・派遣	951	20.8	19.5	1.3
	その他の職業	154	3.4	3.6	△ 0.2
	学生	97	2.1	2.0	0.1
	専業主婦・主夫	521	11.4	11.0	0.4
	無職	789	17.2	21.9	△ 4.7
	不明	65	1.4	1.0	0.4
共働き	している	1,901	41.5	-	-
	していない	2,537	55.4	-	-
	不明	140	3.1	-	-
世帯収入	100万円未満	188	4.1	5.1	△ 1.0
	～200万円未満	414	9.0	10.9	△ 1.9
	～300万円未満	610	13.3	14.8	△ 1.5
	～400万円未満	548	12.0	13.4	△ 1.4
	～500万円未満	446	9.7	10.1	△ 0.4
	～600万円未満	429	9.4	9.1	0.3
	～800万円未満	603	13.2	12.1	1.1
	～1,000万円未満	409	8.9	7.7	1.2
	1,000万円以上	422	9.2	7.3	1.9
	わからない	436	9.5	8.3	1.2
	不明	73	1.6	1.2	0.4
地域	北勢地域	2,135	46.6	45.2	1.4
	伊賀地域	466	10.2	9.6	0.6
	中南勢地域	1,239	27.1	28.4	△ 1.3
	伊勢志摩地域	554	12.1	13.0	△ 0.9
	東紀州地域	157	3.4	3.5	△ 0.1
	不明	27	0.6	0.4	0.2
有効回答数		4,578	100.0	100.0	

II 集計結果（概要）

I 生活の満足度について

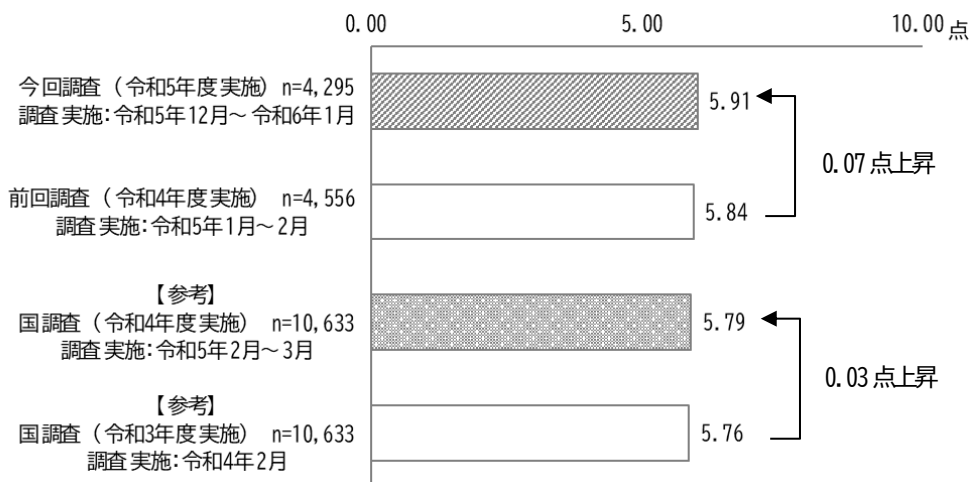
(1) 現在の生活の満足度

問1 あなたは、全体として現在の生活にどの程度満足していますか。

「非常に満足している」を10点、「全く満足していない」を0点とすると、何点くらいになるとお思いますか。

- 県民の皆さんが現在の生活にどの程度満足しているか（以下、生活の満足度）について、内閣府の「満足度・生活の質に関する調査」（以下、国調査）の質問に準じ、10点満点で質問したところ、平均値は5.91点で、前回調査より0.07点高くなっています。

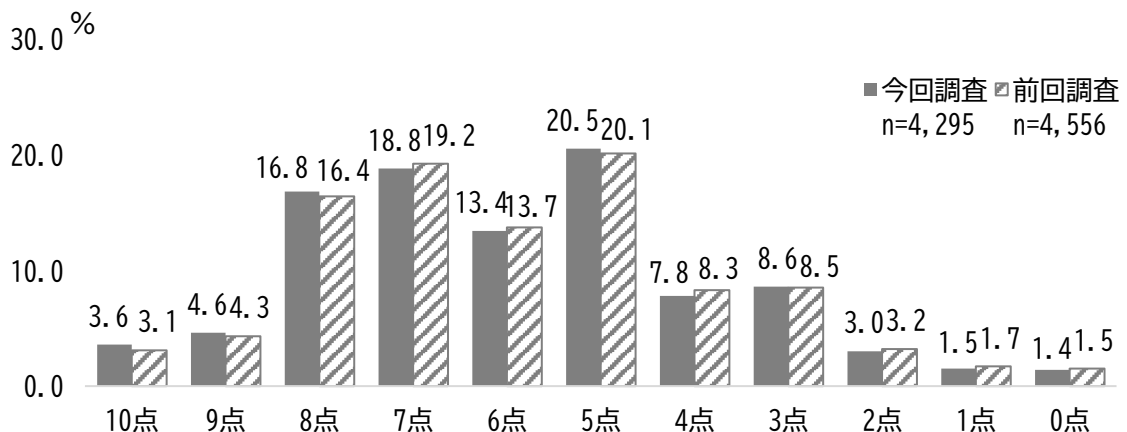
図表2 生活の満足度の平均値（国調査及び前回調査との比較）



※国調査は、約10,000人へのインターネット調査（うち約6,200人は前回調査からの継続サンプルであるパネル調査）であることなど本県の調査方法と異なる点がある。

- 点数の分布をみると、「5点」の割合が20.5%と最も高く、次いで「7点」が18.8%、「8点」が16.8%となっており、M字型となっています。前回調査と比較して、点数の順位に変化はありませんでした。

図表3 生活の満足度の分布（前回調査との比較）



(2) 14 分野別の満足度

問2 次の①から⑭までの項目それぞれについて、あなたの満足度を、「5」(満足)～「1」(不満) (わからない方やあてはまらない方は「0」)の中から選んでください。

- ①家計と資産
- ②あなた自身の給料や報酬・賃金
- ③仕事のやりがいや生活とのバランス
- ④健康状態
- ⑤医療サービス
- ⑥介護・福祉サービスの利用しやすさ
- ⑦子育てのしやすさ
- ⑧子どもの教育
- ⑨交友関係やコミュニティなど社会とのつながり
- ⑩身のまわりの自然環境
- ⑪自然災害への備え
- ⑫交通安全・防犯など身のまわりの安全
- ⑬文化・スポーツなどの趣味、生きがい
- ⑭移動手段、交通の便利さ

○ 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。

5 満足 4 どちらかといえば満足 3 ふつう

2 どちらかといえば不満 1 不満 0 わからない・あてはまらない

○ 「14 分野別の満足度」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる分野別の満足度を調べ、全体としての生活の満足度を把握します。

○ 生活の幅広い範囲について包括的に評価できる体系として総合的な主観満足度とは別に、生活に関連した 14 分野で設定した質問となっています。

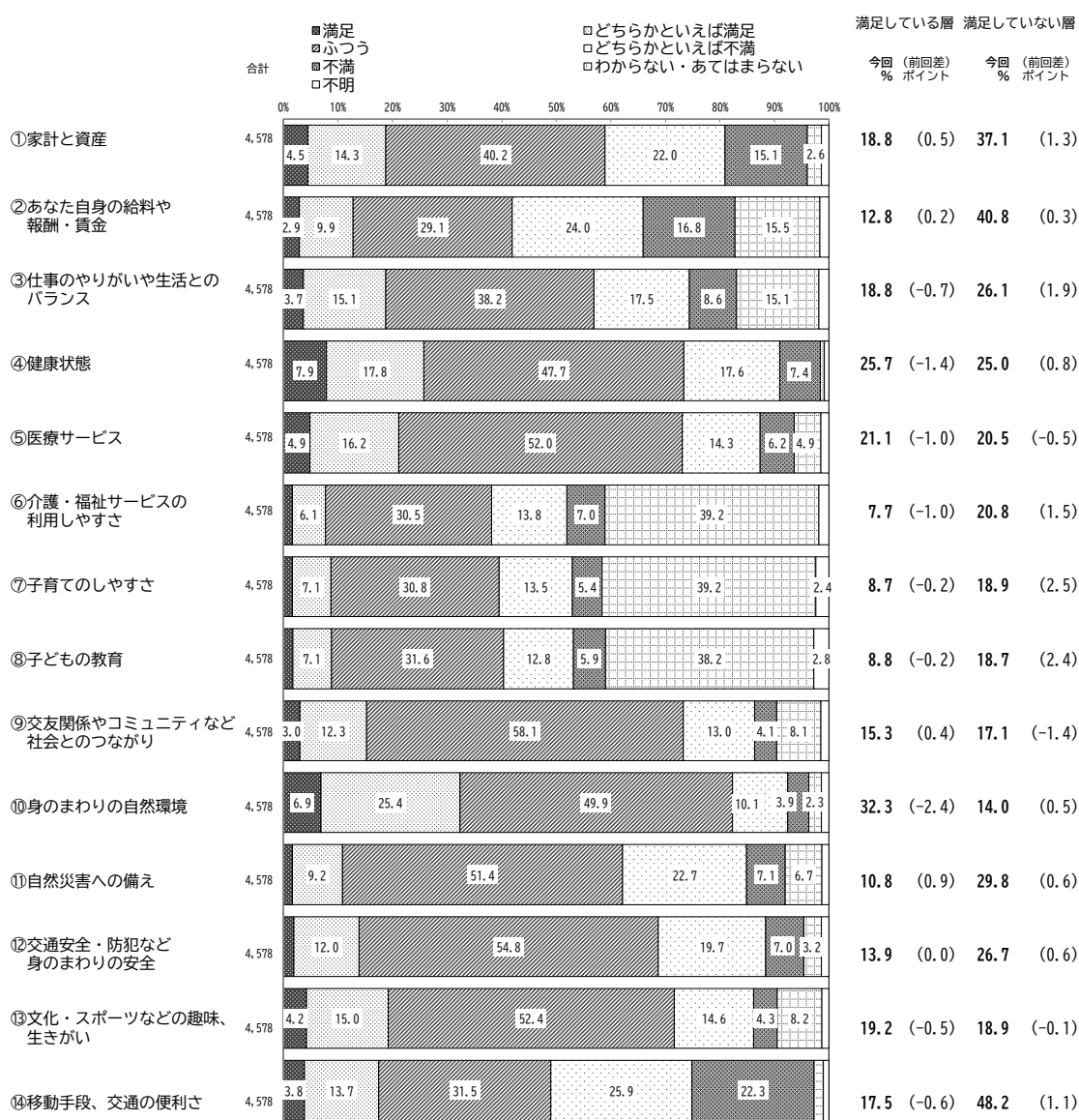
【「満足している層」の割合】

○ 14分野別の満足度について、5点満点で質問したところ、「満足」と「どちらかといえば満足」を合計した「満足している層」の割合は、「⑩身のまわりの自然環境」が32.3%で最も高くなっています。次いで、「④健康状態」(25.7%)、「⑤医療サービス」(21.1%)の順となっています。

【「満足していない層」の割合】

○ 「不満」と「どちらかといえば不満」を合計した「満足していない層」の割合は、「⑭移動手段、交通の便利さ」が48.2%で最も高くなっています。次いで、「②あなた自身の給料や報酬・賃金」(40.8%)、「①家計と資産」(37.1%)の順となっています。

図表4 14分野別の満足度（一覧）



※「満足している層」の割合・・・「満足」と「どちらかといえば満足」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計
 ※「満足していない層」の割合・・・「不満」と「どちらかといえば不満」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計
 ※本質問の回答割合(%)は、「わからない」や「不明(未回答など)」も分母に含めて算出

2 県が注力している取組に関することについて

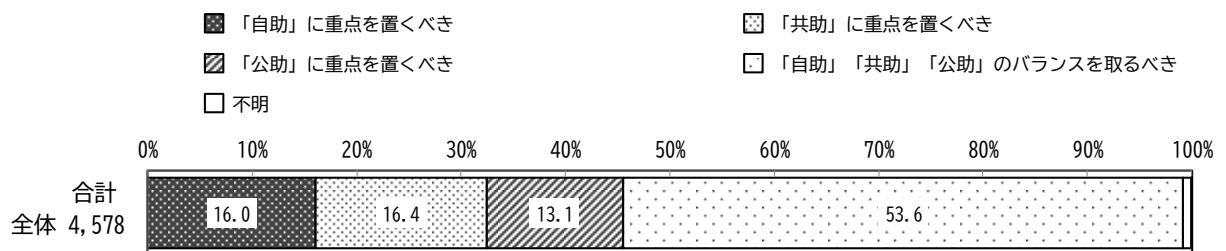
- 県が注力している取組については、「強じんな美し国ビジョンみえ」で示す基本理念の実現に向けて取組を一層加速させていかなければならないと考えられる課題を抽出し、積極果敢に対応していくため、県民の皆さんの実感や状況をみえ県民1万人アンケートでおききました。

○ 災害への備えについて

問3 あなたは、自然災害が起こったときに、被害を少なくするために「自助」、「共助」、「公助」のどれに重点をおくべきと考えていますか。

- 自然災害が起きた場合、「自助」、「共助」、「公助」のどれに重点をおくべきかについて質問したところ、『自助』『共助』『公助』のバランスを取るべきが53.6%で最も高く、次いで『共助』に重点を置くべき(16.4%)、『自助』に重点を置くべき(16.0%)となっています。

図表5 自然災害が起こったとき、「自助」、「共助」、「公助」のどれに重点をおくべきだと思うか

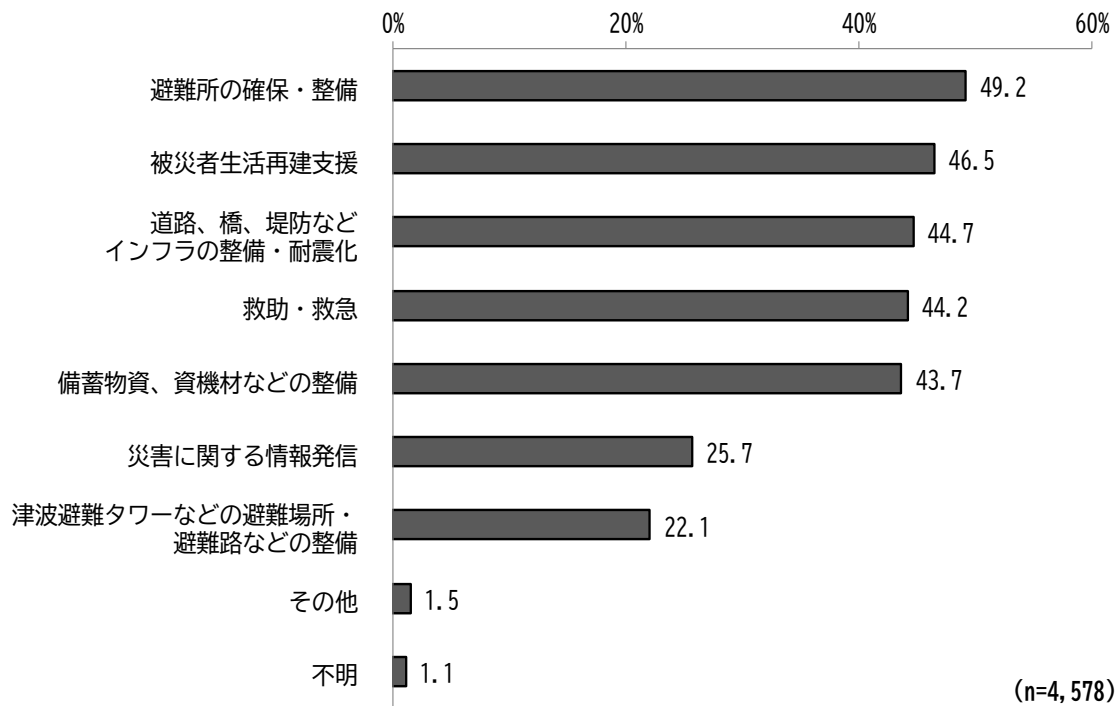


※本質問の回答割合(%)は、「不明(未回答など)」も分母に含めて算出

問4 あなたは、「公助」の取組としてどのようなことが重要だと思いますか。
次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

○ 「公助」の取組としてどのようなことが重要だと思うかについて質問したところ、「避難所の確保・整備」が49.2%で最も高く、次いで「被災者生活再建支援」(46.5%)、「道路、橋、堤防などインフラの整備・耐震化」(44.7%)となっています。

図表6 「公助」の取組としてどのようなことが重要だと思うか

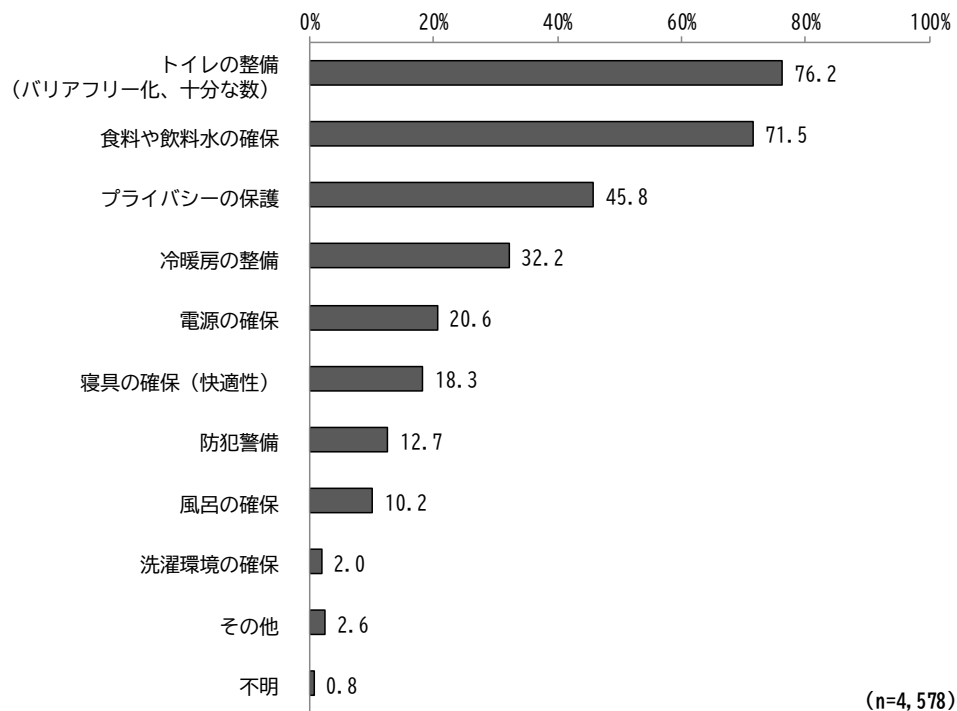


※本質問の回答割合 (%) は、「その他」や「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

問5 大規模な災害が発生したときは、避難所での生活が必要となることがあります（場合によっては長期間）。あなたは、避難所での生活においてどのようなことを求めますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

- 避難所での生活においてどのようなことを求めるかについて質問したところ、「トイレの整備（バリアフリー化、十分な数）」が76.2%で最も高く、次いで「食料や飲料水の確保」（71.5%）、「プライバシーの保護」（45.8%）となっています。

図表7 避難所での生活においてどのようなことを求めるか



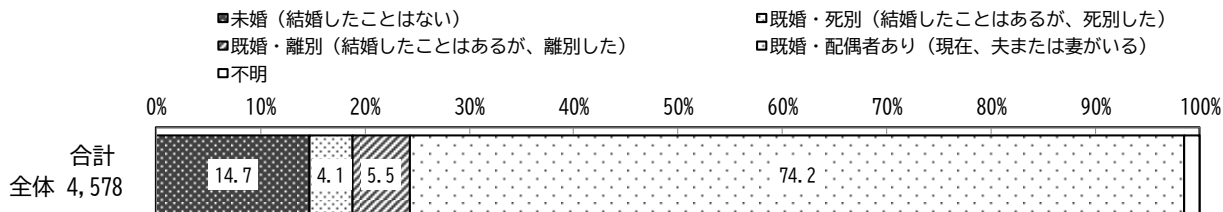
※本質問の回答割合 (%) は、「その他」や「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

○ 結婚について

問6 あなたは、これまでに結婚したことはありますか。

○ 回答者の配偶関係は、「未婚」が14.7%、「有配偶」が74.2%、「死別」が4.1%、「離別」が5.5%となっています。

図表8 配偶関係

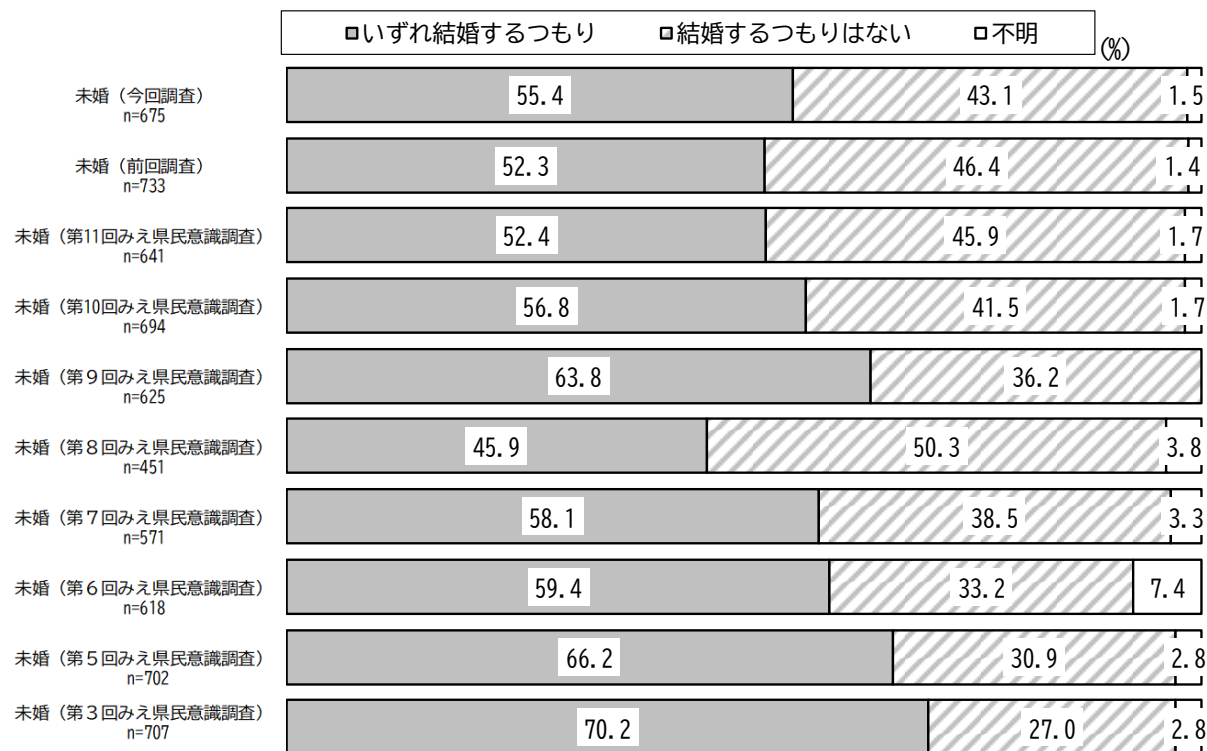


※本質問の回答割合 (%) は、「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

問6-2 これまでに結婚したことがない方 (問6で「未婚」を選んだ方) におきします。
 今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

○ 結婚に対する考え方について、未婚の方は「いずれ結婚するつもり」が55.4%、「結婚するつもりはない」が43.1%となっています。

図表9 未婚の方の結婚に対する考え方



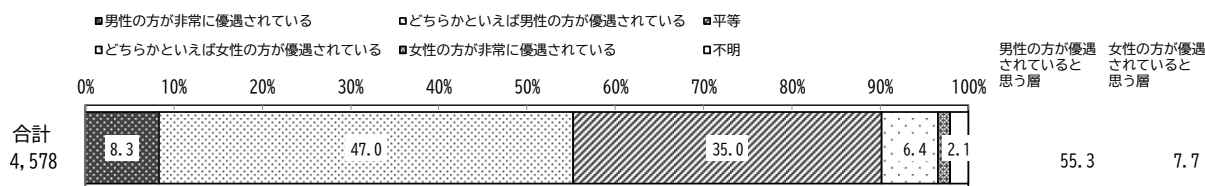
※本質問の回答割合 (%) は、「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

○ 男女共同参画について

問7 あなたは、家庭生活において男女の地位は平等になっていると思いますか。
一人暮らしの方はご実家などご自身の経験をふまえてお答えください。

○ 家庭生活において男女の地位は平等になっていると思うかについて質問したところ、「男性の方が優遇されていると思う層」の割合が55.3%で、「女性の方が優遇されていると思う層」(7.7%)より47.6ポイント高くなっています。

図表 10 家庭生活において男女の地位は平等になっていると思うか



※「男性の方が優遇されていると思う層」の割合・・・「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計

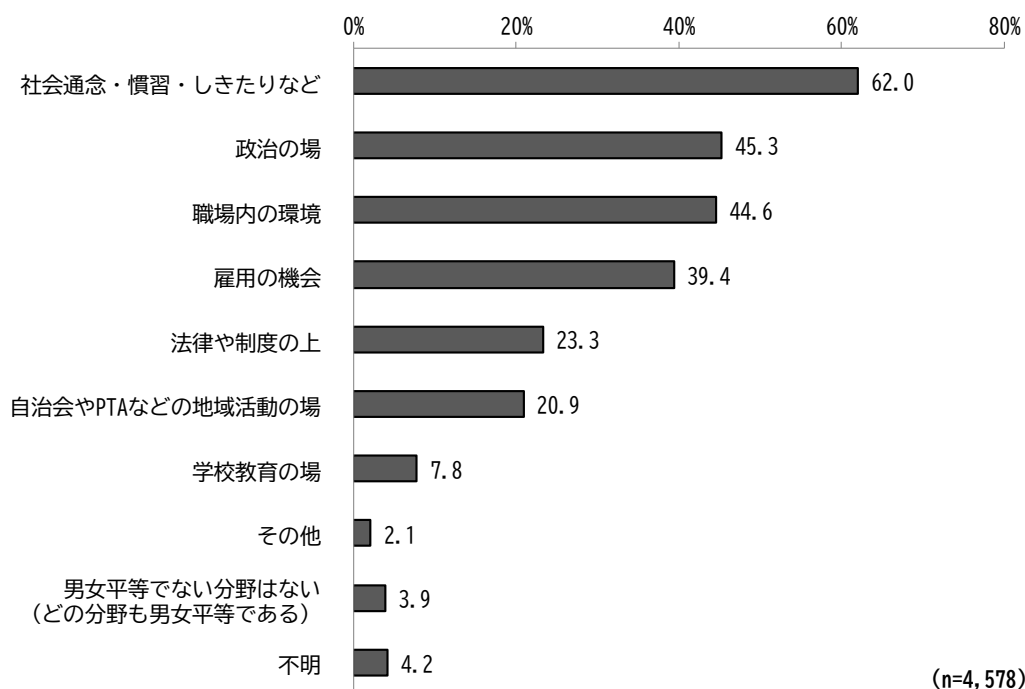
※「女性の方が優遇されていると思う層」の割合・・・「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計

※本質問の回答割合 (%) は、「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

問8 あなたは、家庭生活 (問7) 以外でどのような分野で男女の地位は平等になっていないと思いますか。(複数回答可)

○ どのような分野で男女の地位は平等になっていないと思うかについて質問したところ、「社会通念・慣習・しきたりなど」が62.0%で最も高く、次いで「政治の場」(45.3%)、「職場内の環境」(44.6%)となっています。

図表 11 どのような分野で男女の地位は平等になっていないと思うか



※本質問の回答割合 (%) は、「その他」、「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

○ 子ども・子育て支援について

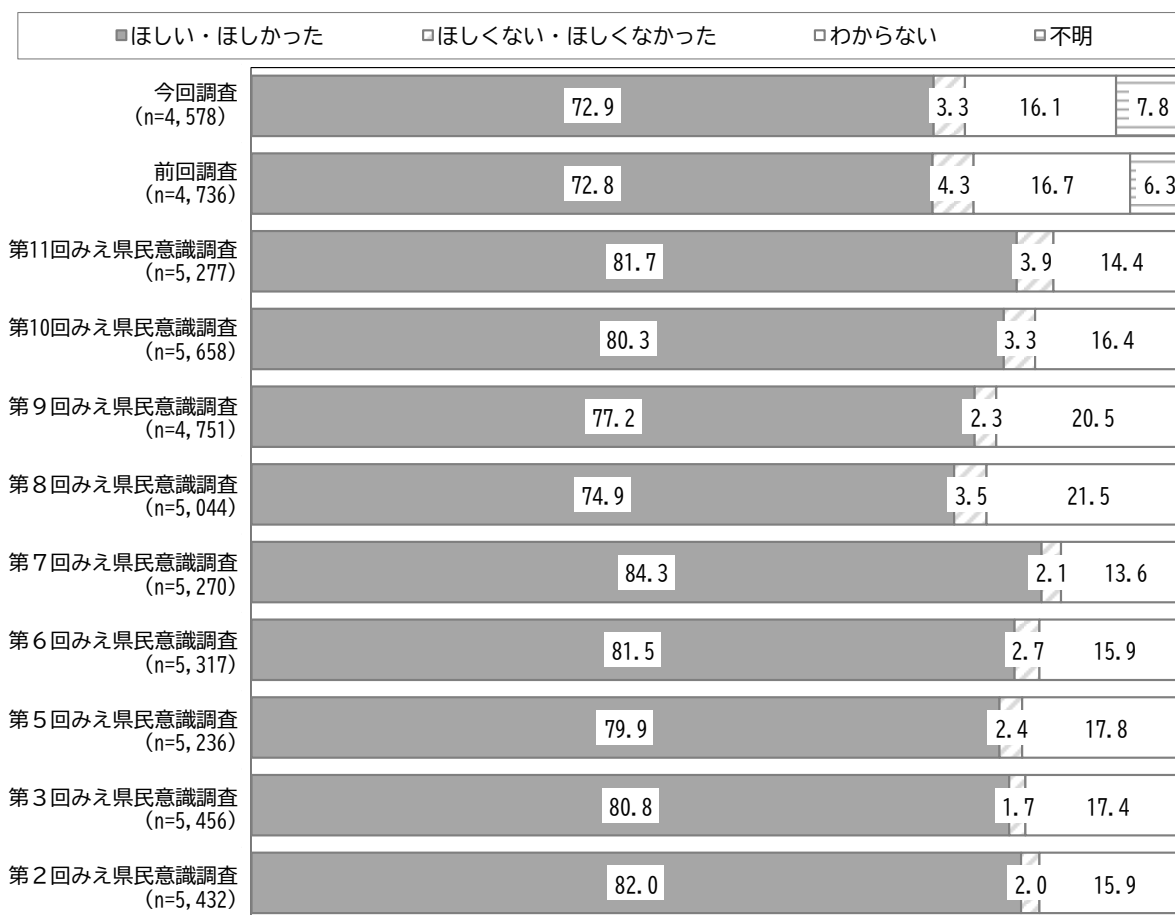
問9 あなたは、子どもを何人くらいほしいですか。あるいは、ほしかったですか。理想の子どもの人数をお答えください。

➤ 子どもを希望する割合

○ 子どもの希望を質問したところ、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は72.9%で、前回調査より0.1ポイント高くなっています。

図表 12 子どもを希望する割合

(%)

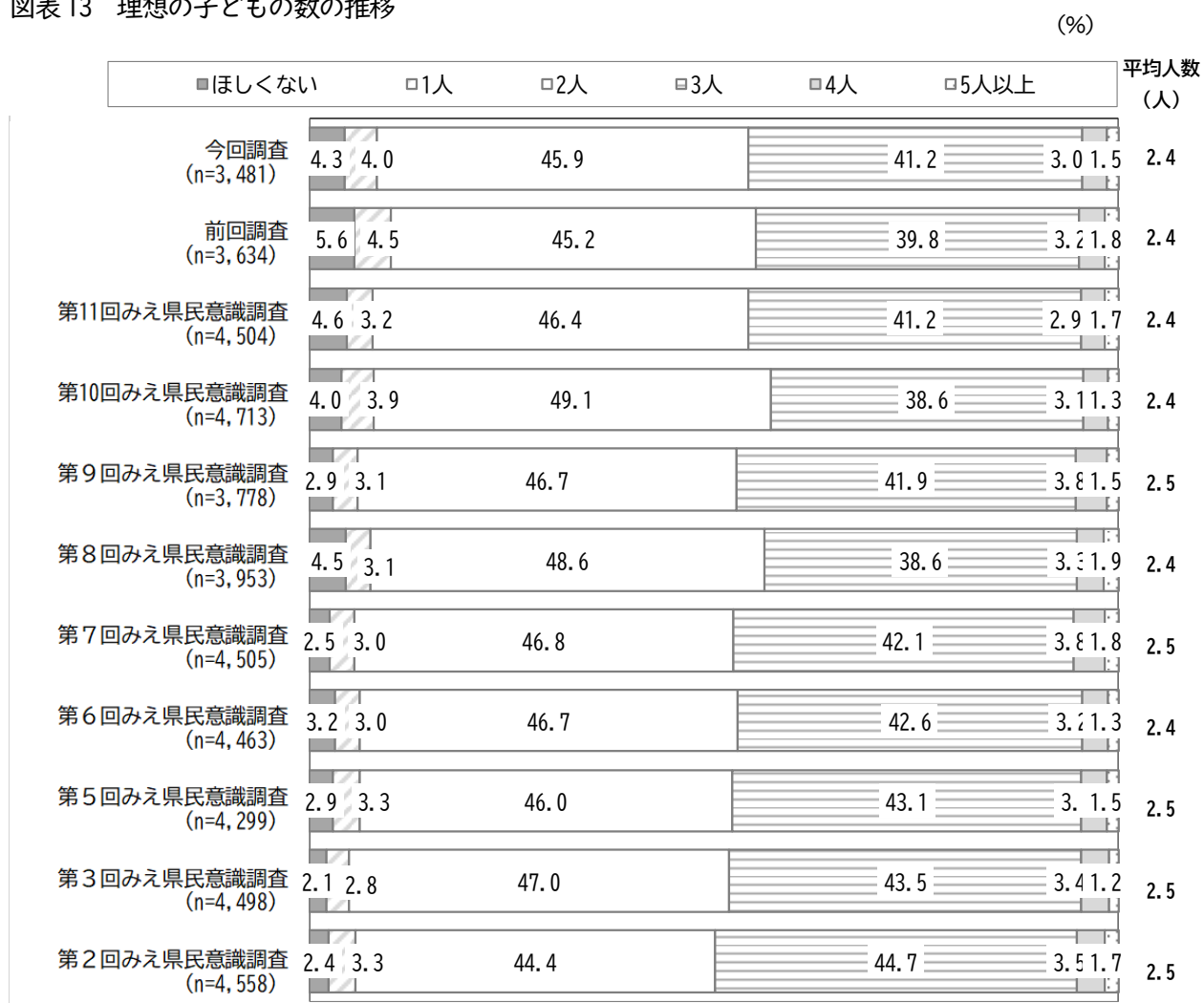


※第11回みえ県民意識調査以前は「わからない」と「不明」を合算し、「わからない」で計上

➤ 理想の子どもの数

- 理想の子どもの数について、「2人」の割合が45.9%で最も高く、次いで「3人」(41.2%)となっています。前回調査と比較すると「2人」、「3人」の割合はそれぞれ高くなっています。

図表 13 理想の子どもの数の推移



※理想の子どもの人数が明記された回答及び「ほしくない」と回答した方を対象に割合を算出
 ※平均値は、「ほしくない」の回答を「0人」として算出

問 10 お子さんはいらっしゃいますか。結婚や就職など既に独立しているか否か、同居しているか否かにかかわらず、記入してください。

➤ 子どもの数

○ 実際の子どもの数を質問したところ、「2人」が46.2%、「いない」が21.7%、「3人」が16.4%、「1人」が13.6%となっています。

なお、回答された方の子どもの平均人数は1.7人で、前回調査より0.1ポイント高くなっています。

図表 14 子どもの数



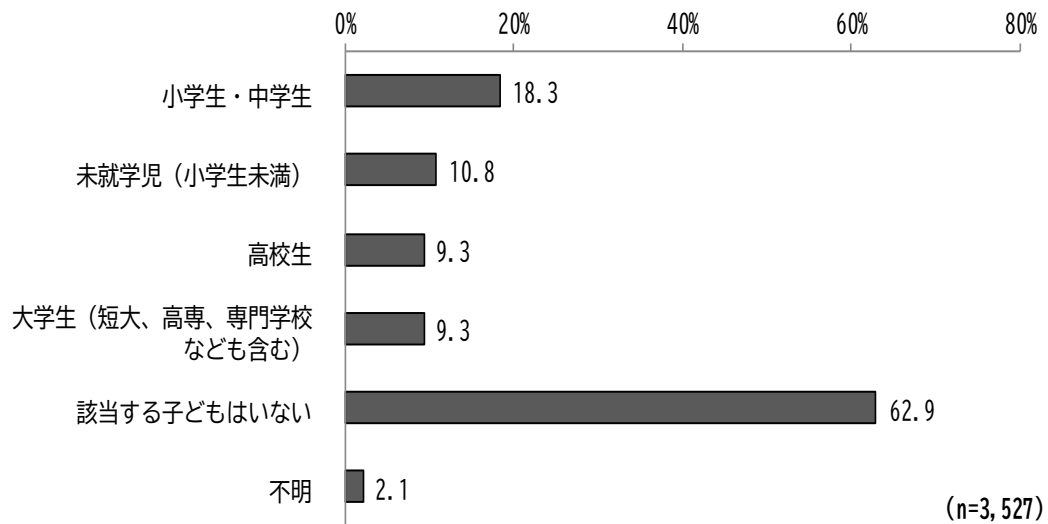
※ 「不明」を除いて回答割合 (%) や平均人数を算出

問 10-2 現在、ご家庭に次の方はいますか。該当があれば○をつけてください。
(複数回答可)

➤ 現在、ご家庭にいる子どもの属性

○ 現在、ご家庭にいる子どもの属性を質問したところ、以下のとおりでした。

図表 15 現在、ご家庭にいる子どもの属性

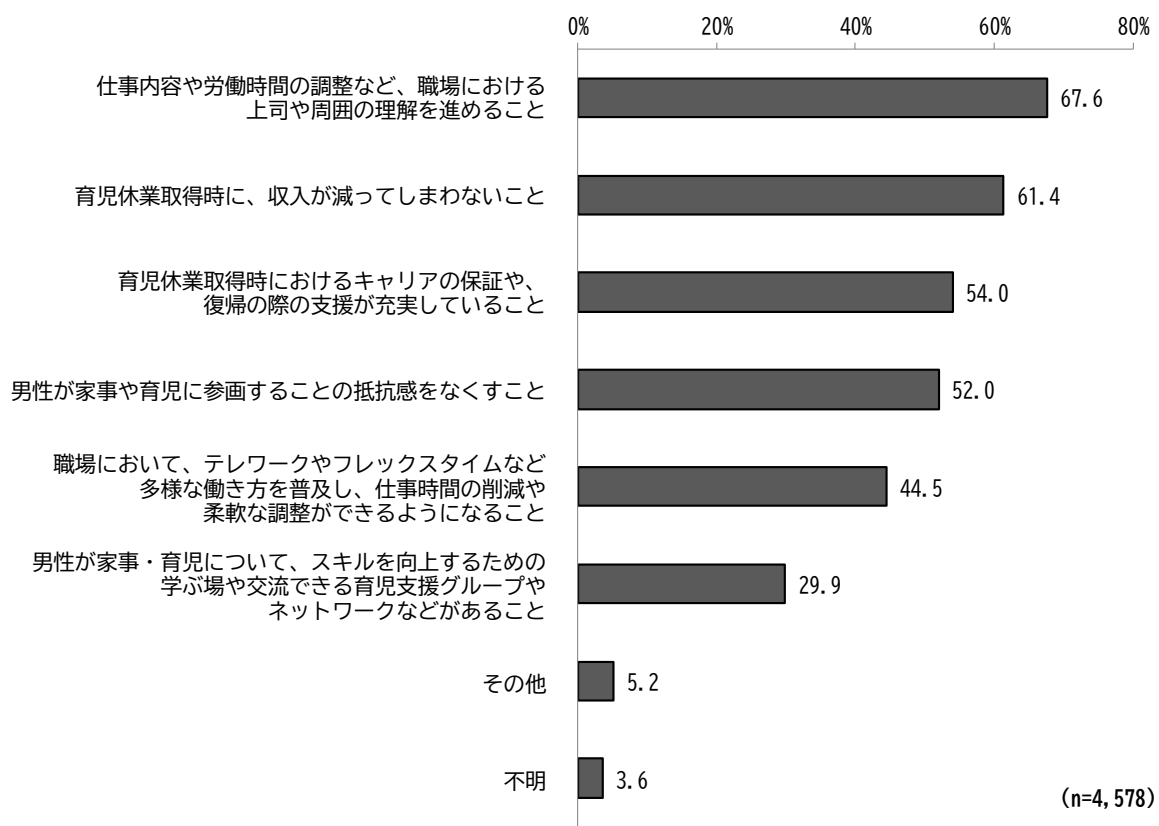


※本質問の回答割合 (%) は、「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

問 11 あなたは、今後、男性が家事や育児に参画していくためには、
どのようなことが必要だと思いますか。

- 男性が家事や育児に参画していくためには、どのようなことが必要だと思うかについて質問したところ、「仕事内容や労働時間の調整など、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が67.6%で最も高く、次いで「育児休業取得時に、収入が減ってしまわないこと」(61.4%)、「育児休業取得時におけるキャリアの保証や、復帰の際の支援が充実していること」(54.0%)となっています。

図表 16 男性が家事や育児に参画していくためには、どのようなことが必要か

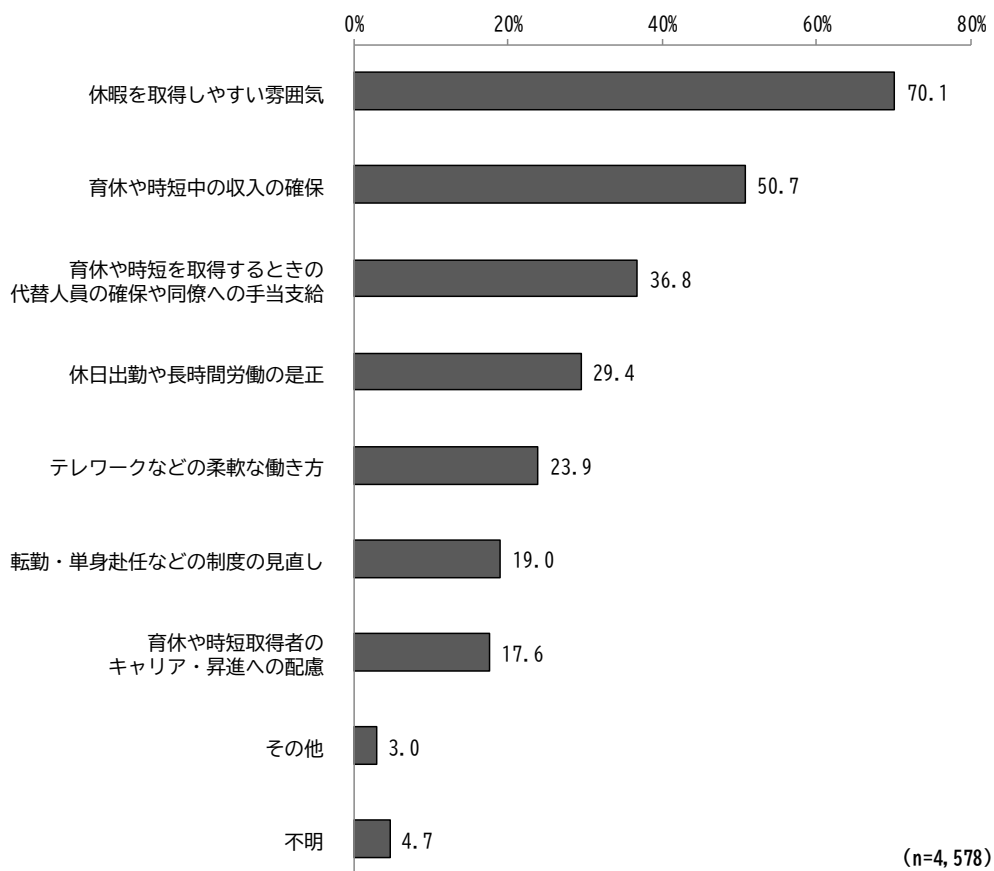


※本質問の回答割合%は、「その他」、「不明（未回答など）」も分母に含めて算出

問12 あなたは、子育てと仕事を両立するために企業で必要だと思う対策は何だと思いますか。

- 子育てと仕事を両立するために企業で必要だと思う対策について質問したところ、「休暇を取得しやすい雰囲気」の割合が70.1%で最も高く、次いで「育休や時短中の収入の確保」(50.7%)、「育休や時短を取得するときの代替人員の確保や同僚への手当支給」(36.8%)となっています。

図表17 子育てと仕事を両立するために企業で必要だと思う対策

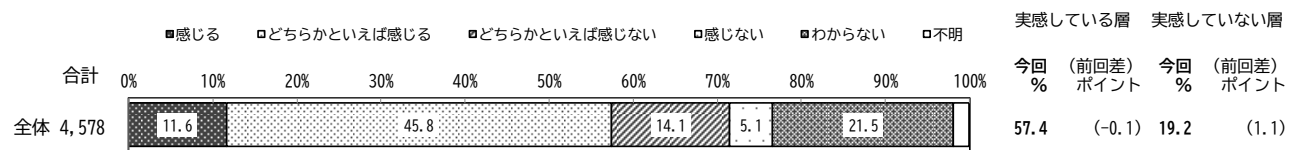


※本質問の回答割合 (%) は、「その他」、「不明 (未回答など)」も分母に含めて算出

問 13 あなたは、地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると
感じますか。

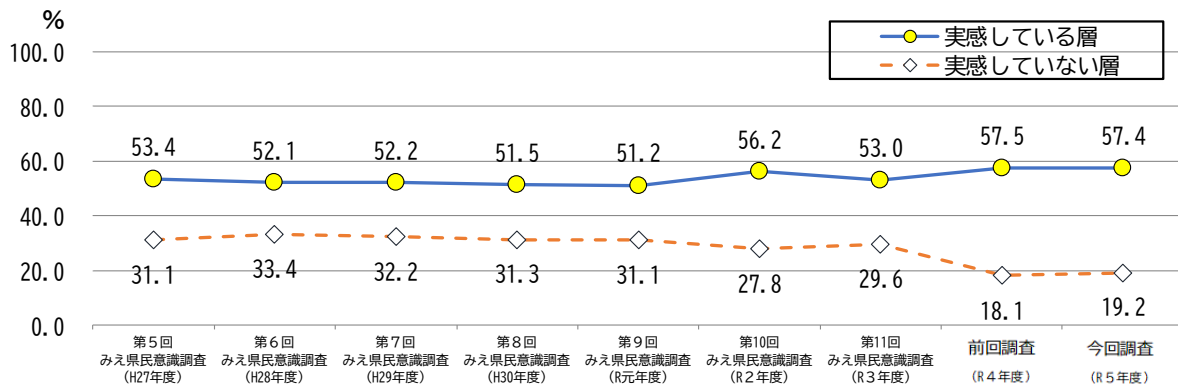
- 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じるかについて質問したところ、「実感している層」が57.4%で、「実感していない層」(19.2%)より38.2ポイント高くなっています。

図表 18 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じるか



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計
 ※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計
 ※本質問の回答割合(%)は、「わからない」や「不明(未回答など)」も分母に含めて算出

図表 19 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じるか

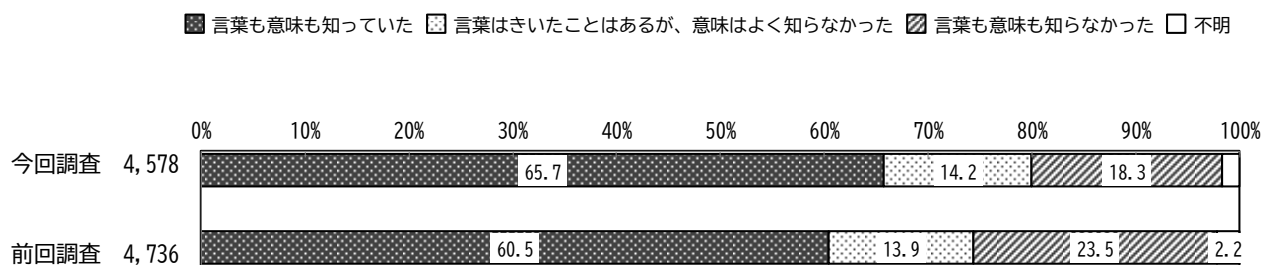


問 14 あなたは、「ヤングケアラー*」について知っていましたか。

*本来であれば大人が行うような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことを「ヤングケアラー」といいます。

- 「ヤングケアラー」について知っているか質問したところ、「言葉も意味も知っていた」の割合が65.7%で最も高く、次いで「言葉も意味も知らなかった」(18.3%)、「言葉はきいたことはあるが、意味はよく知らなかった」(14.2%)となっています。

図表 20 「ヤングケアラー」について知っているか



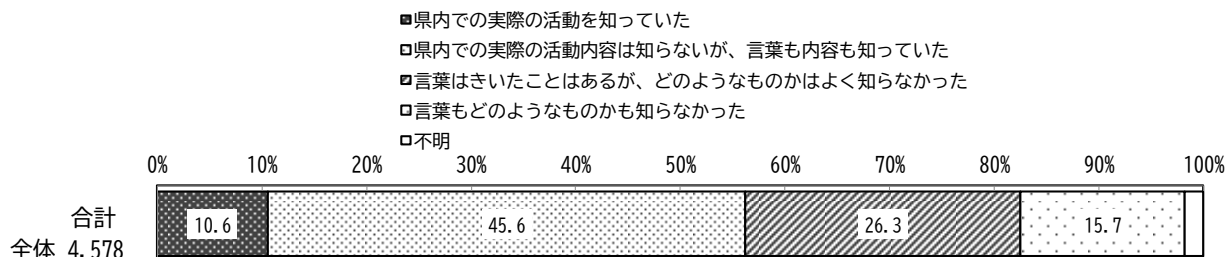
※本質問の回答割合 (%) は、「不明 (未回答など)」も分母に含めて算出

問 15 あなたは、「フリースクール*」について知っていましたか。

*一般に、不登校の子どもに対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施設をいいます。

- 「フリースクール」について知っているか質問したところ、「県内での実際の活動内容は知らないが、言葉も内容も知っていた」の割合が45.6%で最も高く、次いで「言葉はきいたことはあるが、どのようなものかはよく知らなかった」(26.3%)、「言葉もどのようなものかも知らなかった」(15.7%)となっています。

図表 21 「フリースクール」について知っているか



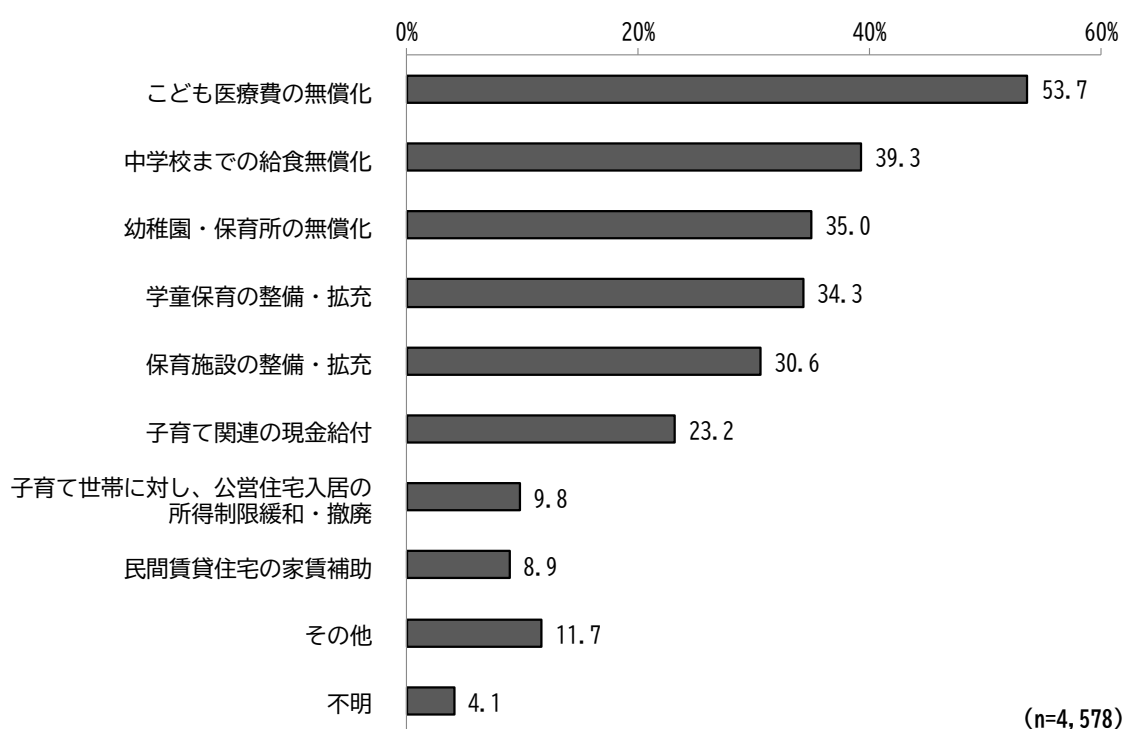
※本質問の回答割合 (%) は、「不明 (未回答など)」も分母に含めて算出

○ 人口減少対策について

問 16 あなたは、子育て支援策のうち人口減少対策として必要だと思う対策は何だと思いますか。

- 子育て支援策のうち人口減少対策として必要だと思う対策について質問したところ、「こども医療費の無償化」の割合が 53.7%で最も高く、次いで「中学校までの給食無償化」(39.3%)、「幼稚園・保育所の無償化」(35.0%)となっています。

図表 22 子育て支援策のうち人口減少対策として必要だと思う対策



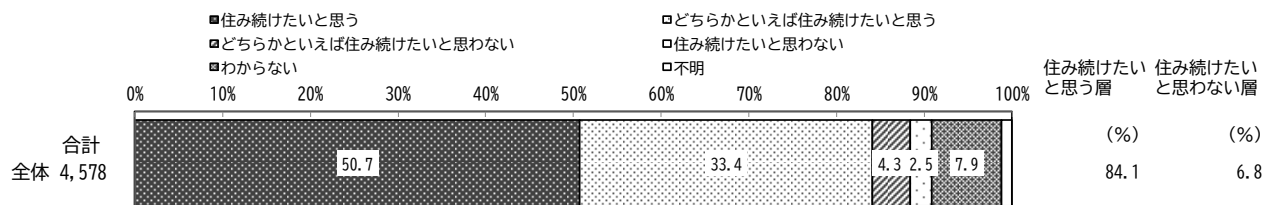
※本質問の回答割合 (%) は、「その他」、「不明 (未回答など)」も分母に含めて算出

○ 定住意向について

問 17 あなたは、三重県に今後も住み続けたいと思いますか。

○ 三重県に今後も住み続けたいと思うかについて質問したところ、「住み続けたいと思う層」は84.1%で、「住み続けたいと思わない層」は6.8%となっています。

図表 23 三重県に今後も住み続けたいと思うか



※「住み続けたいと思う層」の割合・・・「住み続けたいと思う」と「どちらかといえば住み続けたいと思う」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計

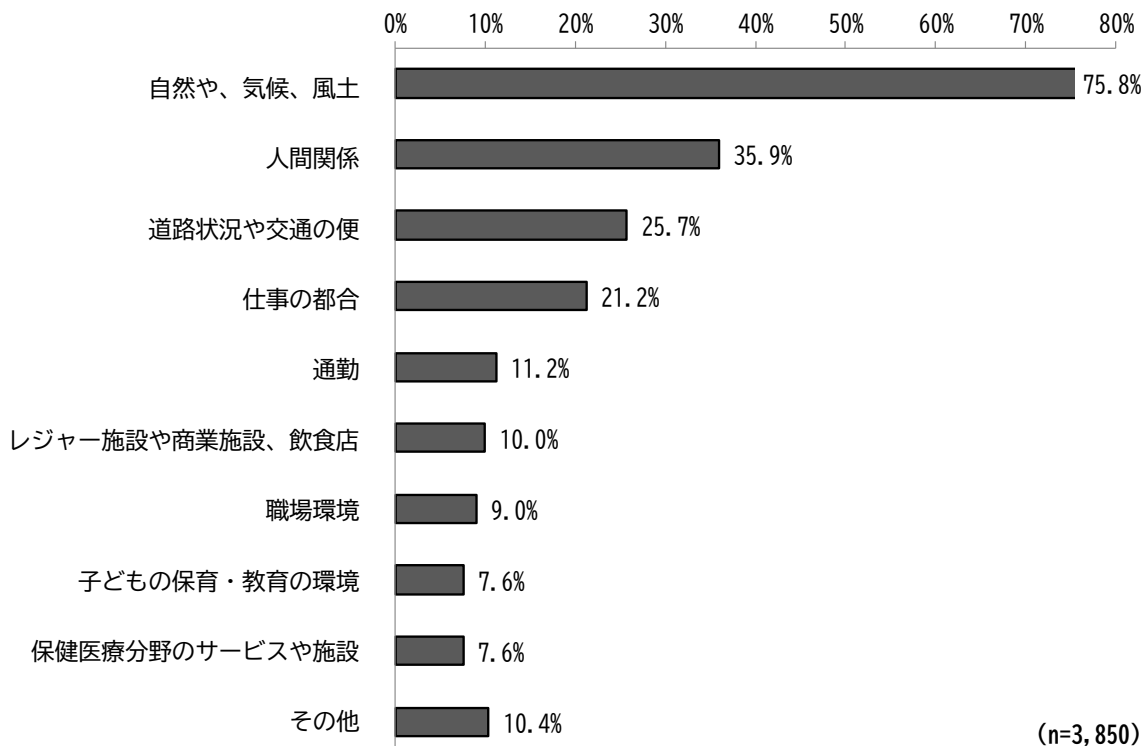
※「住み続けたいと思わない層」の割合・・・「住み続けたいと思わない」と「どちらかといえば住み続けたいと思わない」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計

※本質問の回答割合 (%) は、「わからない」や「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

問 18 問 17 で、そう答えた理由は何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

○ 問 17 の「住み続けたいと思う層」では、「自然や、気候、風土」の割合が75.8%で最も高く、次いで「人間関係」(35.9%)、「道路状況や交通の便」(25.7%)となっています。

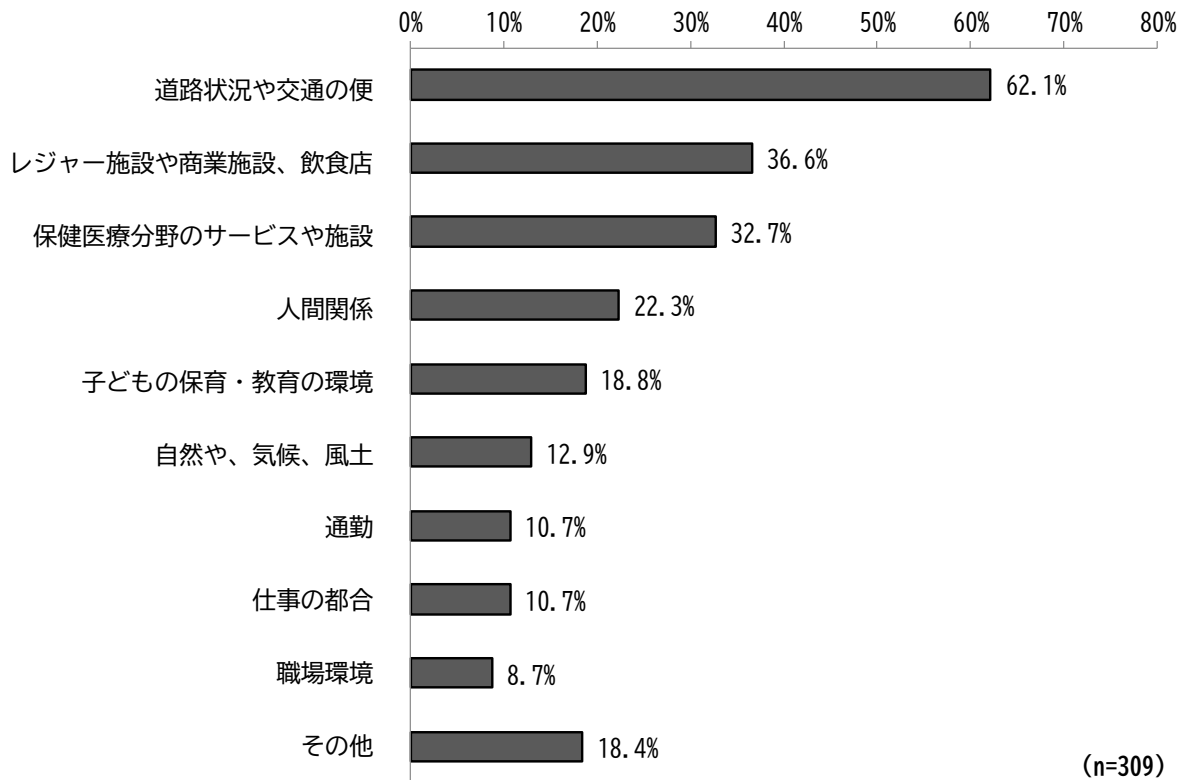
図表 24 三重県に今後も住み続けたいと思う理由



※本質問の回答割合 (%) は、「不明 (未記入など)」を分母に含めず算出

○ 問17の「住みたいと思わない層」では、「道路状況や交通の便」の割合が62.1%で最も高く、次いで「レジャー施設や商業施設、飲食店」(36.6%)、「保健医療分野のサービスや施設」(32.7%)となっています。

図表 25 三重県に今後も住みたいと思わない理由



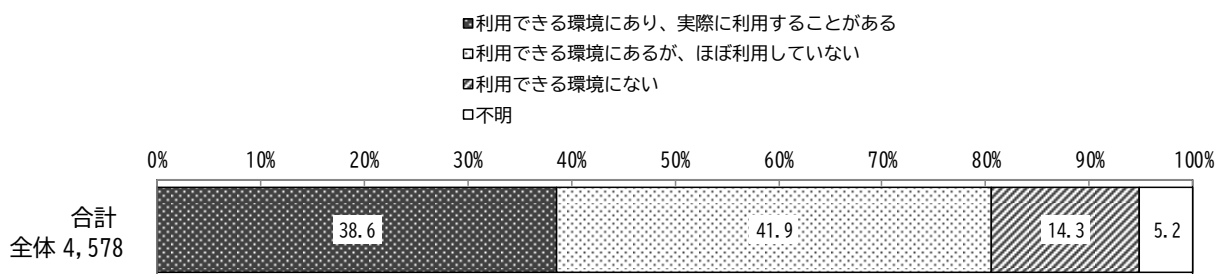
※本質問の回答割合 (%) は、「不明 (未記入など)」を分母に含めず算出

○ 公共交通について

問 19 あなたは、お出かけの際に、鉄道やバスを利用できる環境にありますか。

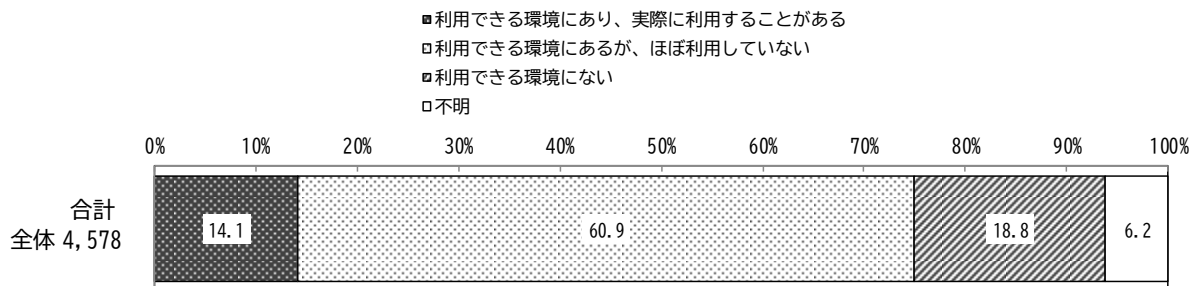
○ お出かけの際に、鉄道を利用できる環境にあるかについて質問したところ、「利用できる環境にあるが、ほぼ利用していない」が41.9%で最も高く、次いで「利用できる環境にあり、実際に利用することがある」(38.6%)、「利用できる環境にない」(14.3%)となっています。

図表 26 お出かけの際に、鉄道やバスを利用できる環境にあるか【鉄道】



○ お出かけの際に、バスを利用できる環境にあるかについて質問したところ、「利用できる環境にあるが、ほぼ利用していない」が60.9%で最も高く、次いで「利用できる環境にない」(18.8%)、「利用できる環境にあり、実際に利用することがある」(14.1%)となっています。

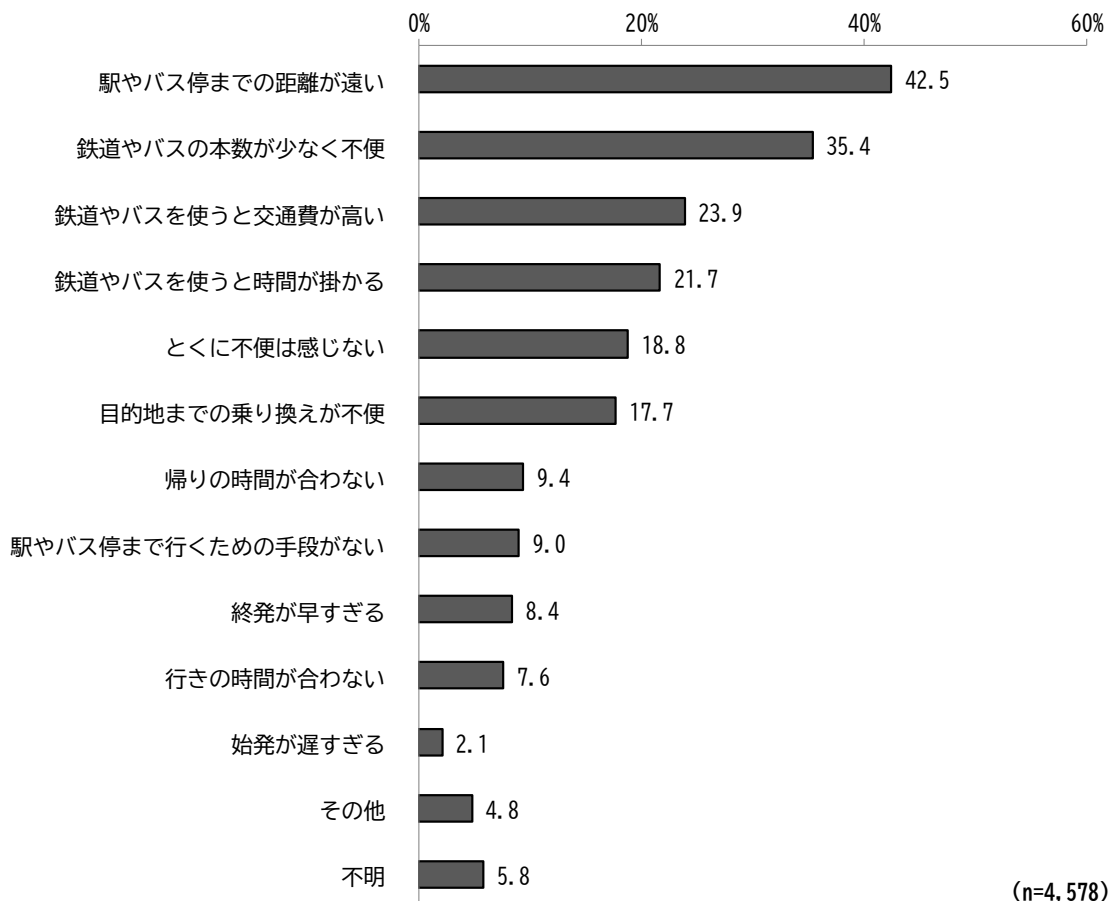
図表 27 お出かけの際に、鉄道やバスを利用できる環境にあるか【バス】



問 20 あなたは、ご自宅から鉄道やバスを利用するときに、どのような部分で不便を感じますか。(複数回答可)

- ご自宅から鉄道を利用するときに、どのような部分で不便を感じるかについて質問したところ、「駅までの距離が遠い」の割合が42.5%で最も高く、次いで「鉄道の本数が少なく不便」(35.4%)、「鉄道を使うと交通費が高い」(23.9%)となっています。

図表 28 自宅から鉄道を利用するときに、どのような部分で不便を感じるか

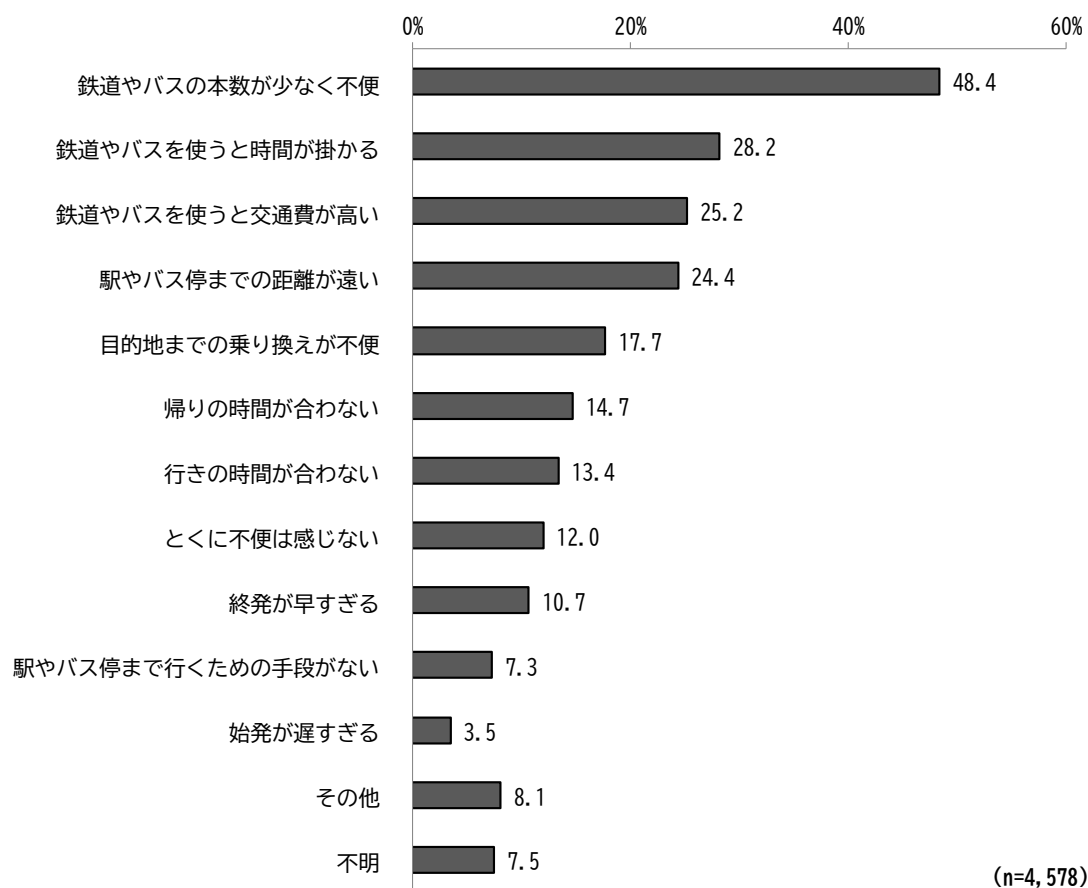


※本質問の回答割合 (%) は、「その他」や「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

※鉄道を利用するときに不便を感じる理由のみを質問

○ ご自宅からバスを利用するときに、どのような部分で不便を感じるかについて質問したところ、「バスの本数が少なく不便」の割合が48.4%で最も高く、次いで「バスを使うと時間が掛かる」(28.2%)、「バスを使うと交通費が高い」(25.2%)となっています。

図表 29 自宅からバスを利用するときに、どのような部分で不便を感じるか



※本質問の回答割合 (%) は、「その他」や「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

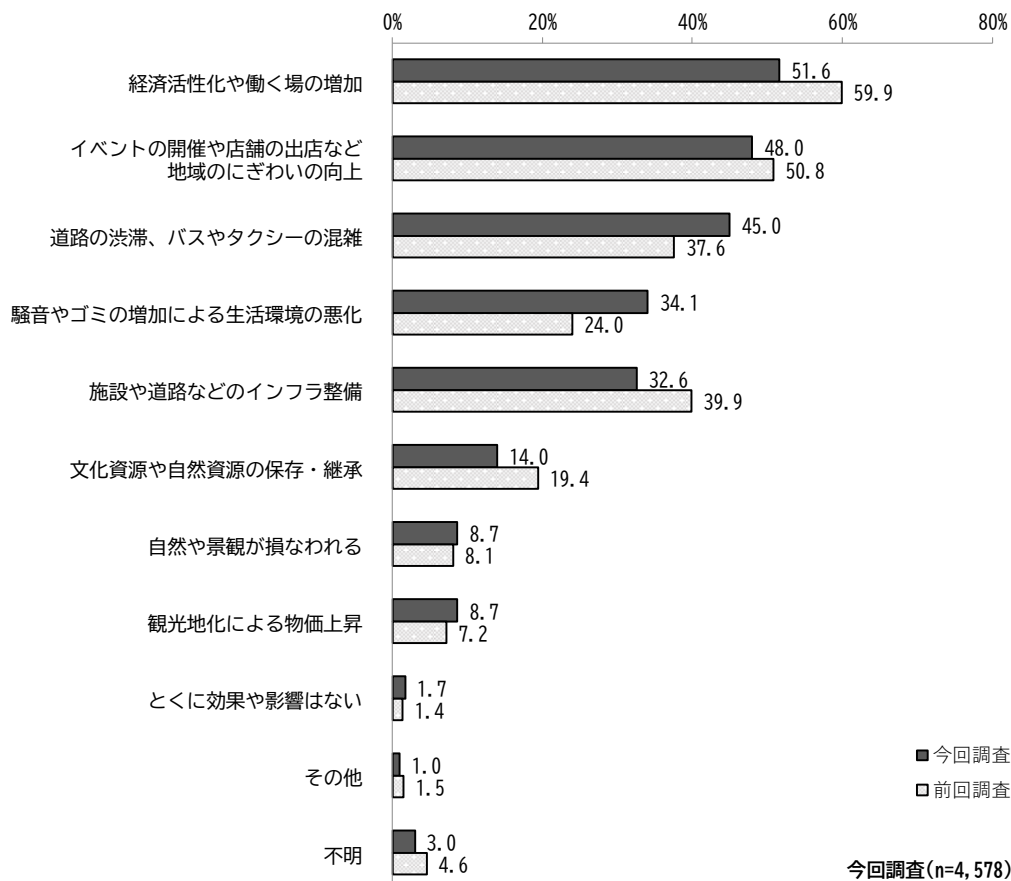
※バスを利用するときに不便を感じる理由のみを質問

○ 観光について

問 21 あなたは、県内各地で観光客が増えると、どのような効果や影響があると思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

- 県内各地で観光客が増えると、どのような効果や影響があると思うかについて質問したところ、「経済活性化や働く場の増加」が51.6%で最も高く、次いで「イベントの開催や店舗の出店など地域のにぎわいの向上」(48.0%)、「道路の渋滞、バスやタクシーの混雑」(45.0%)となっています。
- 前回調査と比較すると、主に「道路の渋滞、バスやタクシーの混雑」(45.0%)、「騒音やゴミの増加による生活環境の悪化」(34.1%)が増加し、「経済活性化や働く場の増加」(51.6%)、「施設や道路などのインフラ整備」(32.6%)が減少しています。

図表 30 県内各地で観光客が増えると、どのような効果や影響があると思うか



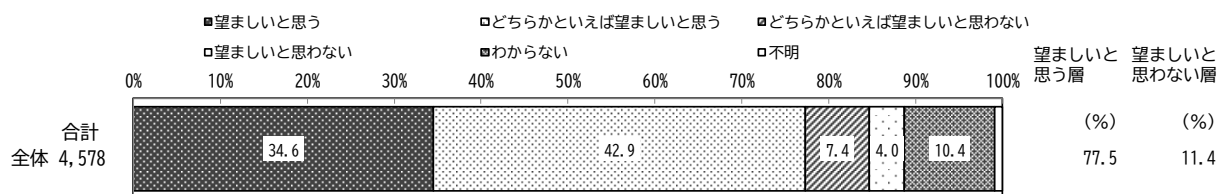
※本質問の回答割合(%)は、「その他」や「不明(未記入など)」も分母に含めて算出

○ 共生社会について

問 22 あなたは、日本人と国籍の異なる外国人が、互いの文化的差異を認め合い、地域社会の構成員として共に生きていく共生社会についてどう思いますか。

○ 共生社会についてどう思うかについて質問したところ、「望ましいと思う層」の割合が77.5%で、「望ましいと思わない層」の割合（11.4%）より66.1ポイント高くなっています。

図表 31 共生社会についてどう思うか



※ 「望ましいと思う層」の割合・・・「望ましいと思う」と「どちらかといえば望ましいと思う」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計

※ 「望ましいと思わない層」の割合・・・「望ましいと思わない」と「どちらかといえば望ましいと思わない」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計

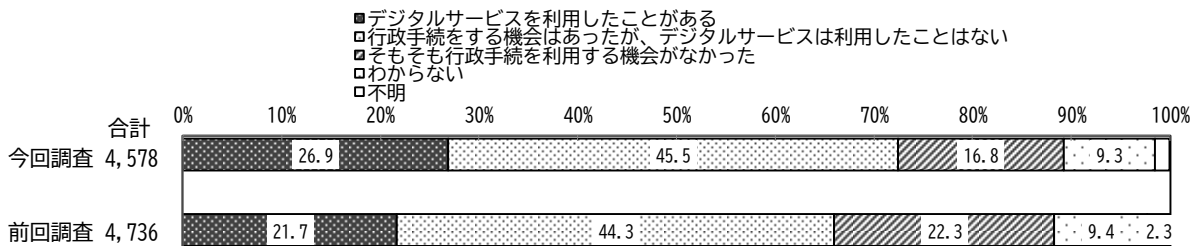
※本質問の回答割合 (%) は、「わからない」や「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

○ デジタルの活用について

問 23 あなたは、納税や住民票の取得などの行政手続をする際、役所の窓口に行かずに手続をするようなデジタルサービスを利用したことはありますか。

- 行政手続をする際、役所の窓口に行かずに手続をするようなデジタルサービスを利用したことはあるかについて質問したところ、「行政手続をする機会があったが、デジタルサービスは利用したことはない」の割合が45.5%で最も高く、次いで「行政手続のデジタルサービスを利用したことがある」(26.9%)、「そもそも行政手続を利用する機会がなかった」(16.8%)となっています。
- 前回調査と比較すると、「行政手続のデジタルサービスを利用したことがある」が5.2ポイント、「行政手続をする機会があったが、デジタルサービスは利用したことはない」が1.2ポイント増加し、「そもそも行政手続を利用する機会がなかった」が5.5ポイント減少しています。

図表 32 行政手続をする際、役所の窓口に行かずに手続をするようなデジタルサービスを利用したことはあるか

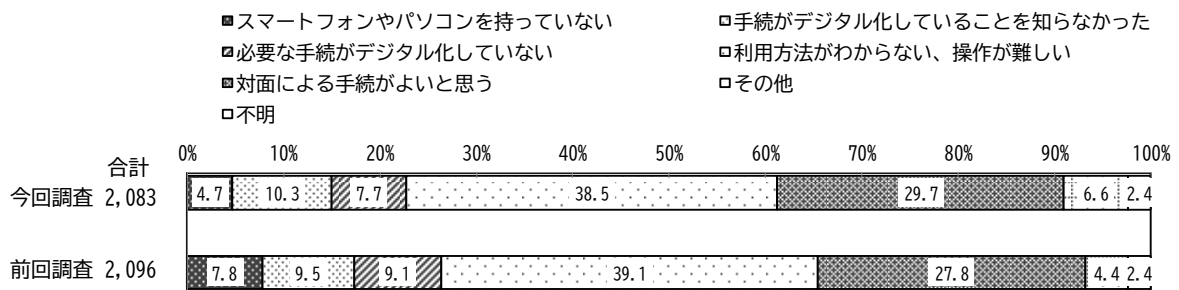


※本質問の回答割合(%)は、「わからない」や「不明(未記入など)」も分母に含めて算出

問 23-2 行政手続をする機会があったが、デジタルサービスは利用したことはない理由は何ですか。

- 行政手続をする機会があったが、デジタルサービスは利用したことはない理由について質問したところ、「利用方法がわからない、操作が難しい」の割合が 38.5%で最も高く、次いで「対面による手続がよいと思う」(29.7%)、「手続がデジタル化していることを知らなかった」(10.3%) となっています。
- 前回調査と比較すると、「対面による手続がよいと思う」が 1.9 ポイント、「手続がデジタル化していることを知らなかった」が 0.8 ポイント増加し、「利用方法がわからない、操作が難しい」が 0.6 ポイント減少しています。

図表 33 行政手続をする機会があったが、デジタルサービスは利用したことはない理由



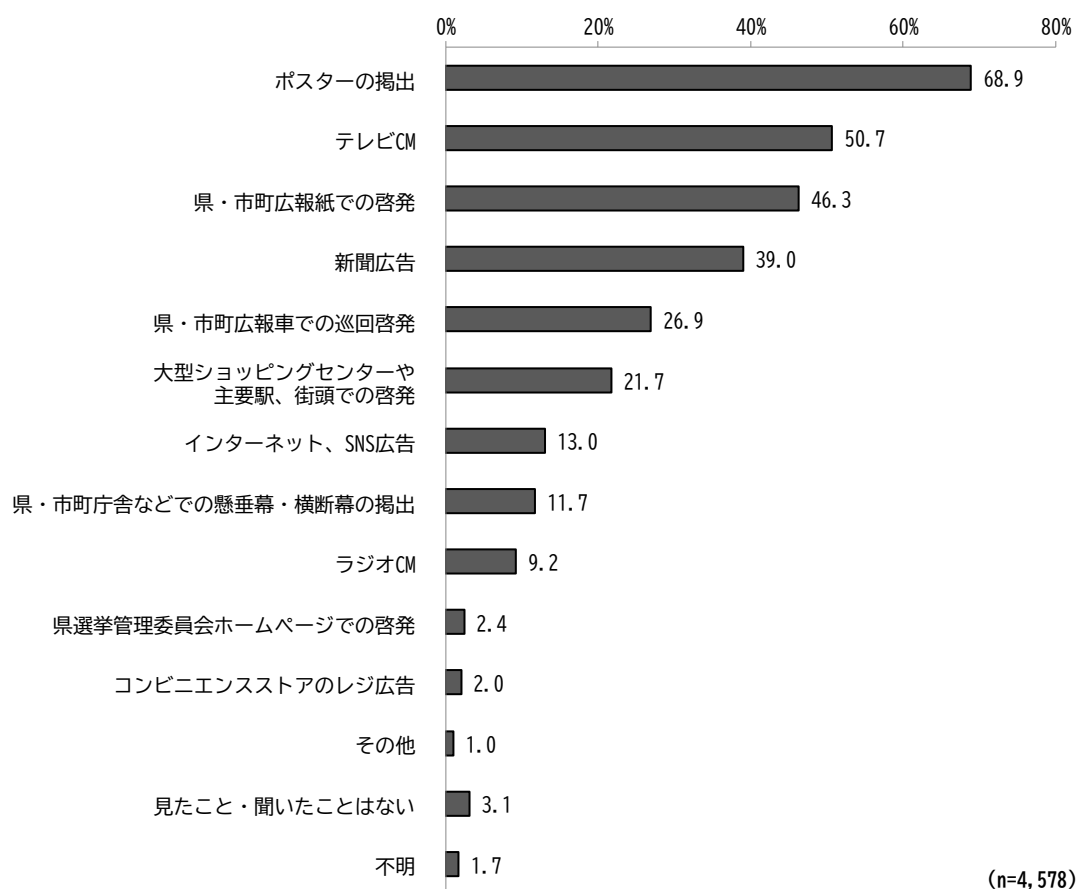
※本質問の回答割合(%)は、「その他」や「不明(未記入など)」も分母に含めて算出

○ 選挙について

問 24 県では、国政選挙・地方選挙（県議会議員選挙、知事選挙）時に、県民に向けて、選挙期日の周知や投票を呼び掛ける啓発を行っています。あなたが、これまでに見た・聞いたことがあるものは、どの啓発媒体ですか。（複数回答可）

○ これまでに見た・聞いたことがある啓発媒体について質問したところ、「ポスターの掲出」が 68.9%で最も高く、次いで「テレビ CM」（50.7%）、「県・市町広報紙での啓発」（46.3%）となっています。

図表 34 これまでに見た・聞いたことがある啓発媒体



※本質問の回答割合 (%) は、「その他」や「不明 (未記入など)」も分母に含めて算出

○ 国体について

問 25 国民体育大会*（以下、国体）については、国等において、大会の充実・活性化を図りながら、持続可能なスポーツ大会を目指して議論が行われています。また、施設整備や開・閉会式など、大会の準備・運営に関わる開催都道府県の人的・財政的負担が増大しており、簡素化などに向けた議論も併せて行われています。

今後の国体の開催について、何か意見などがありましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

*2024 年からは「国民スポーツ大会」へ名称変更

■ 「国体について」の自由記述の回答数は 1,170 件。

■ 主な意見

【肯定的な意見】

- ・ 競技者にとって重要な大会なので、今後も大いに盛り上げて開催してほしい。
- ・ 国民の交流の場、地域活性化のため継続してほしい。
- ・ スポーツ振興のため、三重県での開催を望みます。
- ・ これからも継続してほしい。スポーツすること、応援することの素晴らしさをみんなで感じたい。

【見直しが必要】

- ・ 簡素化したうえで大会を持続してほしい。
- ・ 広域で開催するなど既存施設の有効利用を促進すべき。
- ・ 簡素化等工夫してほしい。
- ・ 数年に一度の開催でよいと思う。
- ・ 全国からボランティア等募集して盛り上げてほしい。
- ・ 持ち回りは必要なのか。
- ・ もう少し経費を抑えるべきだと思う。
- ・ 人的、財政的負担が少なくできる方法を考えてほしい。
- ・ 時代に合わせてマイナーチェンジを行ってほしい。
- ・ 競技ごとに会場（開催地）を固定してしまってもよいのではないか。

【否定的な意見】

- ・ 財政負担が大きいため、子ども施策など他の施策に使ってほしい。
- ・ 開催する必要性を感じない。
- ・ 無理に実施しなくてよい。